

ガーナでそろばんプロジェクト42号(2015年 5月 31日)

★ 教会よりも行きたいと思ったもの..だけでも、そのためにも..12歳の思い★

アフィエ村
そろばん教室

報告 TOSHIKO

五月のそろばん教室の開室は、予定していた日数よりはるか少なく1回のみ開室となっていました。これは、私自身が目の病気になる村に行けなかったからです。ニアフリカで病気になる度につづくと思うのが“アフリカで病気にかかる治りが遅い”ということです。今回も完治するまでに2週間以上も要しました。ガーナで活動していくには健康第一ということを変更して思い知らされました。

5月のたった一回の貴重な開室日に登室したのは、ギデオオン一人だけでした。そろばん教室の開室日は事前にカレンダーを配布して知らせています。カレンダーを配ることによって、子どもたち自ら計画が立てられると感じ、1年前の2014年3月から毎月月終わりに翌月の開室日を知らせるカレンダーを配布するようになっていきました。それ以前は、スクールホリデーに特別開室する時だけ配布していました。今回、5月のカレンダーには、“You are going to church! SOROBAN School is after church!”と記載しました。**教会に行くこと。そろばん教室は、教会の後に開室と。**さて、5月の1回だけの開室日に登室してきたギデオオン。ギデオオンは現在12歳。クラス6に在籍しています。そろばん教室に初めて来たのは、2014年2月2日。誰に誘われたでもなく一人でやってきました。当時クラス5の時です。私は最初、ギデオオンがクラス5の生徒だということはわかりませんでした。以来、ギデオオンは友だちに左右されることなく、そろばん教室に通い続けているのです。そんなギデオオン、日曜日でも誰よりも早く登室してきて、教室をきれいにそうじして待っていてくれることが多

くありました。時には、いつ到着するかも分からない私をトロトロと呼ばれる乗り合いバスの停留所で待っていたこともありました。そんな中、一度だけギデオオンに聞いたことがあります。“教会はないの?”と。ギデオオンの答えは“ない”という答えだったので、以後、日曜日にどんなに早く来ても私は教会のことは聞きませんでした。日曜日、学校近くの教会からは、ドンチャカドンチャカたいへん賑やかな音楽が流れてきます。時には、何かのコンサートが催されているの?と感じるほど、子どもの声援が聞こえてきます。また牧師らしき人が現地語で話している声も聞こえてきます。そうした時間が午後1時くらいまで続いたりするので、教会を終えてそろばん教室に来た子どもたちは、聞こえてくる牧師の話が面白いのか?そろばんを弾きながらクスクス笑っていました。アフィエ村だけでも数多くの教会があります。デバインアカデミースクールも日曜日には教会になるのです。20人近くの近所の人たちがネイズイのクラスにタンバリンなどの楽器を持って集まり、終了まぢかになるとタンバリンをチャカチャカ鳴らしだす声で唄ったりするのです。私は、こうしたガーナの教会をあまり良い印象で思っていないません。神様にケンカを仕掛けようとかという気持ちでは無く、この異文化が未だに受け入れられているのです。もちろん、この事は学校関係者はじめとして子どもにも言ったことはありません。教会に村人全員が熱心に通っているわけではありません。しかし、毎週水曜日はチャーチの時間割り組まれているキリスト教徒の学校では、やはり教会は大切なものなのかもしれません。ギデオオンが教会に行っていないことを知ったのは3月後半のことでした。ギデオオンの通う教会の牧師から“どうして来ないのかな?”とやんわり校長先生に連絡があったそうです。ギデオオンが教会よりもそろばん教室を選んできたことをうれしく思う反面、罪悪感もあります。12歳の子どもに、教会に行くことの大切さを教えられなかったことです。行く大切さが未だに伝えられていません。ギデオオンは、私が“教会に行つてからそろばん教室に来ること”と言ったので、その教えはきちんと守り、教会後に来ました。教えを守ったというよりも、そろばん教室を続けたいから...:そろばんをやりたいから...:ひよっとしたら、そろばんを教えてくれる私“トシコ”を護りたいから...:という12歳の子どもの思いがあったのかもしれない。

協賛

トモエそろばん様